

令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】新宿区立東戸山小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和7年5月28日】

授業作り	<p>重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が「話したくなる」「聴きたくなる」視点に立った課題の設定と授業の工夫。 ・ペア・トリオ・グループ等、効果的なグループワークの効果的な設定。 ・タブレット端末、電子黒板等のICT機器やホワイトボード・付箋・思考ツールなどを活用した思考の可視化や共有化。 ・「問い」を大切にし、主体的・対話的な学習過程を大切にしたわくわくする授業の展開。
環境作り	<ul style="list-style-type: none"> ・学校担任制を目指す学校として、学級担任以外の教員も児童と関わる時間を増やした。複数の教員が積極的に児童と関わることで、児童理解が深まり、適切な指導や支援につながっている。 ・自分たちで落ち着いて学習に取り組む環境づくりとして、「ヒガト学習スタンダードのもと」を作成し、掲示した。 ・パワーアップタイムを活用し、国語・算数の技能的な基礎基本だけでなく、情報モラルや読書力、探求力の向上などを目的とした活動時間を設けている。(5月から本格実施) ・4月は、学級ソーシャルスキルの実践や書籍を参考にして、人との関わりや共に生きるためのルールやマナーを学ぶ経験を積み重ねてきた。相手の話を聴いたり受け止めたりする力の素地を養うことで、児童の能力を最大限に伸ばす教育を実現していく。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年	/	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を正しく書く力を身に付ける。 ・人の前で、自分の考えを適切な声の大きさと最後まで発表できるようにする。 ・数に対する理解を確実にする。 ・鉛筆の持ち方や姿勢、発表の仕方など学習の基本や決まりを身に付ける。 ・タブレット端末の基本操作ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の学習時間・機会の確保 ・発表の機会の確保と充実 ・具体物や数ブロックなどの半具体物の活用 ・デジタルドリルの活用 ・姿勢保持などの基本的な学習の繰り返し指導 ・タブレット端末の使い方について分かりやすい指導、活用機会の充実
2 学 年	/	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を正しく書く力を身に付ける。 ・人の前で、自分の考えが適切な声の大きさと発表できるようにする。 ・数に対する理解を確実にする。 ・鉛筆の持ち方や学習中の姿勢などの基本的な学習方法を身に付ける。 ・タブレット端末の基本操作ができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の学習時間・機会の確保 ・発表の機会の確保と充実 ・デジタルドリルの活用 ・姿勢保持などの基本的な学習の指導の充実 ・タブレット端末の基本的な操作方法や管理方法の習得

<p>3 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的な学力の定着が不十分な部分がある。原因としては、文章を読む、文字や漢字を書く、計算などこれまでの学習に苦手意識をもつてることが考えられる。そのため、身に付けた力を上手に使いこなして、新しい学習につなげることについては個人差が大きい。 ・学習意欲はあるが、どのように学習に取り組むのか具体的な方法が分からない児童がいる。 ・発言を好む児童は多く、授業では進んで発表し、話し合いも活性化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力で話を聞き、行動に移せるようにする。 ・言葉の意味を知り、相手が話している内容に正確に理解できるようにする。 ・文字を書く力や文章を書く力を身に付ける。その時に、ある程度の長さの文面を書けるようにする。 ・漢字を正しく書き、覚え、授業や生活の中で活用できるようにする。 ・計算は早く正確に答えが出せるようにする。また、ある程度の数の問題を決められた時間内に継続して解けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の内容の理解を深めるための説明の工夫。相手に伝わりやすいように、短く、端的に話す指導 ・漢字の定着を図るための漢字練習と漢字テストの確認・デジタルドリルの活用による繰り返し練習 ・話型の活用、話し合いや発表形態の工夫 ・ノートの効果的な活用や日記等、書く場面の充実
<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文学的文章を読み取る力が身に付いている。 ・漢字の字形を捉え、正確に書くことができる児童もいるが、十分にできていない児童も多い。 ・考えを伝えたり、友達の考えに対して質問したりする力が身に付いていない児童が多い。 ・「数」「式による表現」について理解している児童もいるが、理解していない児童もいる。 ・基本的な四則計算でつまづく児童がいる。大きな数のかけ算では、九九、繰り上がり、足し算などを正しく計算することに課題がある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の指示を理解し、児童同士の充実した学び合いができるようにする。 ・既習漢字の読み書きを、デジタルドリルと書くドリルを活用し定着させる。 ・立式する際、図・言葉・式を用いて、説明することを日頃から行う。 ・基本的な知識・技能の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に考えや意見を伝える話型の活用 ・話を落ち着いて聞く態度の育成 ・パワーアップタイムにおけるタブレット端末の活用(デジタルドリルの活用) ・児童同士で考えを交流する時間の設定
<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を的確に理解したり文章の内容を正確に読み取ったりするために、言語理解、語彙力を高める必要がある。 ・自分の考えを論理立てて伝える力を高める必要がある。 ・算数では、基本的な知識・技能が身に付いている児童が多いが、個人差が大きい。 ・学んだことを応用して計算する力は、練習を積んで伸ばしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の中心をおさえ、要点を整理して読むことが必要である。読書活動を推進し、語彙力を高める。 ・基本的な文章の組み立て方を理解し、自分の考えや思いを順序立てて分かりやすく伝える力の向上を図る。 ・自分が苦手とする分野を把握し、自ら課題解決に取り組む力を身に付けさせる。 ・小数のかけ算やわり算では、桁数が増えても正確に計算できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書時間の確保 ・作文の書き方の基礎基本の指導 ・要約文を書く場面の設定 ・発表の機会の確保と充実 ・話し合い活動、意見交流の充実 ・デジタルドリルの活用 ・児童一人ひとりに即した課題の設定 ・振り返り時間の確保 ・三角定規、分度器、コンパスなどの道具の適切な使い方の指導 ・毎日一問の取り組みや基本的な計算練習の日々の取り組み

<p>6 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の話を聴き、自身の考えと関連付けたり、新しい考えを生み出したりするような学習ができる必要がある。 ・「書く」ことの領域で記述式や応用問題についての力を向上させる必要がある。 ・語彙の習得や活用の基礎・基本を見直し定着させていく必要がある。 ・物語文の、登場人物の気持ちを読み取る力を向上させる必要がある。 ・数と計算や図形の領域の理解を深める必要がある。 ・全ての児童が学習内容を確実に理解できるよう、児童一人ひとりの学びに向かう力を向上させる必要がある。 ・自分の苦手な分野を意識して取り組めるようになった。 ・長期的記憶や理解が定着するようにタブレット端末を活用し、確かな学力の定着を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーアップタイムを生かして、「聴く・話す」の充実を図り、学習を深める学習を行うようにする。 ・正しく漢字を書いたり、既習の漢字を適切に使って文章を書いたりできるようにする。 ・順序立てて話したり、要点を押さえて聞いたりすることができるようにする。 ・語彙の習得数を多くして、活用できるようにする。 ・文章構造について理解させ、適切に文章に書き、表現できるよう、5W1H を意識した書き方が身に付くようにする。また、論理的な思考を、文章で表現できるようにする。 ・学習内容の定着度の個人差が大きいため、底上げを図る必要がある。 ・題意を正確に読み取る力を身に付けさせる。 ・時間、長さ、かさ、重さ等の量感をイメージして考える力を身に付けさせる。 ・課題解決の方法を考え、文章や図で表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーアップタイムの資料の活用 ・デジタルドリルの活用 ・話型の指導や、話の聴き方の指導の充実 ・文章を書く機会の充実 ・レディネステストを活用した児童の実態を把握する機会の設定 ・個に応じた問題を設定することによる基礎・基本の定着 ・問題場面を具体的に捉えさせ、学習したことを応用する場面の設定 ・具体物の操作により具体的なイメージをもって考える場面の設定 ・数直線や図等に表し、解決させる指導を繰り返す場面の設定
<p>特 別 支 援</p>	<p>（このセルは対角線が入っており、内容が空白です）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の基礎・基本の定着に個人差がある。また、生活場面の中で、学んだことを応用することが苦手な児童がいるため、児童の実態に合わせた指導・支援を行い、学習で学んだことを生活場面で活用していく力を身に付けさせる。 ・コミュニケーションに支援が必要な児童がいるため、話したり、聞いたりする力や、一対一の対話や交流を通して、ソーシャルスキルを身に付け、コミュニケーションをスムーズに取れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語や算数などで学んだことを、生活場面を想定した学習活動に生かし、実践的に学ぶ機会を設定 ・実態に合わせた学習のグループを編成の工夫 ・タブレット端末やICT機器の活用 ・学級内たてわり班活動、異学年交流など、意図的に関わる機会の充実 ・手話や記号などの多様なコミュニケーションの実践